



特217

65

識常のてしと民國

著里鶯林小



0001477000

3

0001477-000

特217-65

国民としての常識

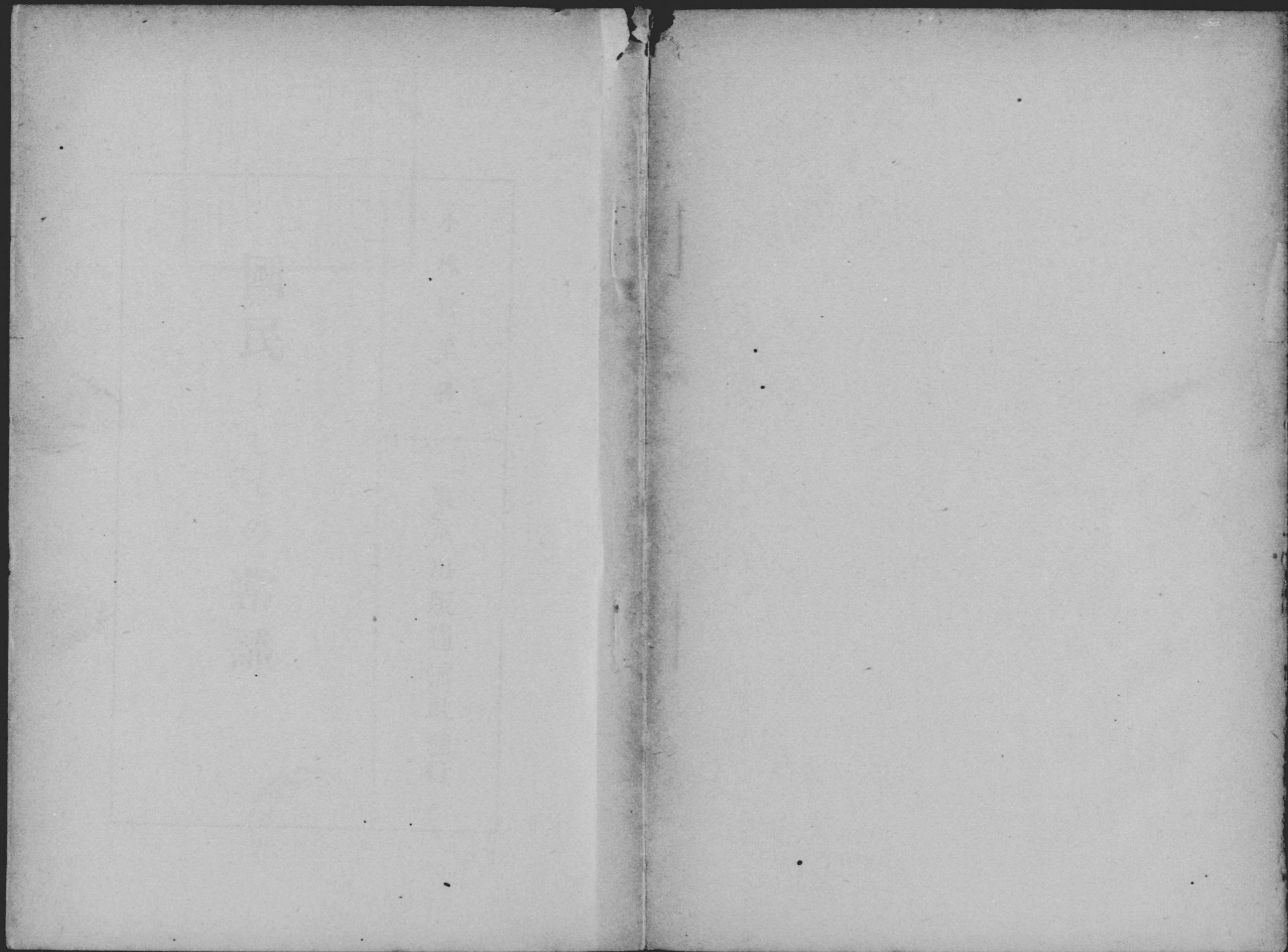
小林鶯里・著

東京出版通信社

昭和13

AAC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年5月15付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもので



特217
65



小林篤里著

東京出版通信社發行

國民としての常識



はしがき

常識じやうしきと言ふ辭ことばは専門家せんもんかでなくても、誰でもが日常生活にちじやうせいくわつの上に心得て居らねばならぬ一般的知識はんてきちの謂いひである。斯かやうに日常生活のあらゆる方面に亘わたつて居る事であるから、一口に常識といつても非常に範圍はんかが廣い。

此の廣い範圍の常識の中でも、特に吾々が心得て居なければならぬのは、帝國ていこく國民の一人としての常識である。

本書は嚴密げんみつに内容を精選せいせんして、國民の一人たる者の必ず心得て居なければならぬ事項じかうを述べたのである。

幸に本書に依つて大國民の一人として、最も有意義いういぎに生きらるゝならば本懐ほんかいとする所である。

國民としての常識 〔目次〕

我が國の國體……………(一)

日本帝國の領土……………(三)

皇城……………(四)

皇宮及び御所・離宮……………(八)

祝祭日……………(一一)

外國の聖日……………(一五)

諸官衙……………(一六)

帝國議會……………(二四)

中央行政官廳……………(二七)

法律とその種類……………(二八)

國民の權利と義務……………(三一)

地方自治と府縣會……………(三五)

選舉とその種類……………(三八)

兵役の義務……………(四一)

各種の租税……………(四三)

教育の力……………(四五)

貸借の説明……………(四八)

戸籍の話……………(五〇)

家族の定義……………(五二)

財産とその種類……………(五四)

經濟の意義……………(五七)

犯罪とその種類……………(五九)

貨幣の話……………(六一)

切手の話……………(六四)

爲替の話……………(六)

學位の話……………(七)

勳章の話……………(七)

位階の話……………(七)

官等の話……………(七)

特別保護建造物と國寶……………(七)

神宮と神社……………(七)

人生の記念日と祝日……………(八)

暦の話……………(八)

七曜日の由來……………(九)

月名の由來……………(九)

—「目次了」—

國民としての常識

小林 篤 里 著

我が國の國體

總て國體は主權とその人民との關係によつて異なるものであるもので、我が國の如きは建國の最初から君臣の分が劃然として定まり、少しも亂れることがなく、恰も父母の愛情のようで、歴代の天皇は仁政を垂れて臣民を愛撫せられ、臣民も亦一意専心皇室を擁護して、國家を維持し、忠君の道に侍ることもなく、以て今日に到つたのである。

國號には古來種々の名稱がある、大八洲國、葦原中國、水穗國、大和國、秋津島

敷島、内木綿眞佐國、磯輪上秀眞國、浦安國、細戈千足國、玉塔内國、言舉せぬ國
 言靈幸國、言靈助國、扶桑國等あるが、之は歴史上のこととて今一般に用ひられてゐ
 る日本といふ國號は、孝德天皇の朝に選定せられたものである。

人種の上から見た日本は、學者によつて説が色々あつて一定してゐないが、我邦
 人は海外から移住して來たもので、有力な説に隨へば大和民族、熊襲種族、穴居種
 族の三大種族に分れる、其の中で最も多數で、尤も優等なものは大和民族である、
 此の大和民族は朝鮮人と馬來人との混種であるといひ、或はベルシヤ附近から來た
 ものだといひ、又或は韃靼地方から來た人種であるといつて異論が非常に多いけれ
 ども、兎に角蒙古人種の部類に入るといふのが一番穩當な説であると思はれる。

抑々外國の例では、多くの國家の主權を人民にあるものと認め、或は氏族が互ひ
 に相犯して、兵力の強いものが帝位に登るといふやうな事が非常に多い、此の點は
 我が國と全く趣を異にしてゐる。世界萬國が大抵上述のやうな國體であるに拘らず

我が國獨りその間にあつて、萬世一系の皇室を戴き、古今一貫して終始渝る事のな
 い嚴然たる帝國を建設して來たといふ事は、實に我が國が萬國に比して、特殊な點
 であつて、同時に世界に其の比を見ない所である。

吾々新時代の國民たるものは、今後益々この國體を維持し、愈々其の精華を發揮
 し社會の開明進歩と伴ひて國運を隆盛ならしめるやうに、奮勵しなくてはならない

日本帝國の領土

我が帝國の領土は明治の初年以來二十八年までは二萬四千七百九十四方里三六に
 すぎなかつたが、明治二十八年日清戰爭の結果、臺灣澎湖島を加へて、二萬七千百
 二十六方里四六となり、同三十八年には大國ロシアと戦つてその結果樺太の大半を
 ロシアから讓受け、二萬九千三百三十五方里三八となつた。又同四十三年には神代
 以來交渉を重ねて來た朝鮮を併合して一萬四千二百二十三方里となり、今日では四萬

三千七百七十八方里を有するに至つたのである。世界陸地總面積に對する帝國の總面積は四分八六にあつてゐる。斯やうに明治維新以來僅か五十餘年にして、かくの如く新領土を加へ、一方版圖を廣めると同時に、帝國の文化は隆々として進み、遂に今日見るやうな世界強國の一二に加へられることになつた。

皇 城

皇城は東京市の中央にあり、其の面積は三十萬六千七百六十坪で、御殿の總建坪は一萬二千七百三坪、其の中表御殿の廣さは二千二百十坪と承はる。皇城の中には賢所、皇靈殿、神殿、神嘉殿、正殿、豐明殿、表御殿、奥御殿、振天府、建安府等の種々の御殿が建てられてゐる。

吹上御苑は舊西城の西北にあり、總坪數十三萬五百六十八坪あつて、三區に分れ

てゐる。中央の廣潤な所を芝庭と言ひ、南方を新構と稱へ、北方を田地と呼ぶ。そして御苑内に霜錦亭、望嶽臺、駐春閣、觀瀑亭、吹上御茶屋などの各種の亭があつて、春秋の候などには情景極めて佳絶であるといふ。

賢所 賢所とは以前は内侍をして守護の任にあたらせられたから内侍所とも言はれてゐた。即ち皇祖天照大御神の御靈代として三種の神器の一つである神鏡を奉安してある所である。三種の神器とは言ふまでもなく、皇孫、瓊々杵尊が御降臨の時大御神が親しくお授けになつたもので、八咫鏡、草薙劍、八坂瓊曲玉を言ふのである、この神鏡は第十代崇神天皇の御代に、神威を濟すことをおしそれになつて、模造の劍鏡を造つて殿内にお留めになるやうになつた事は、歴史の傳へる所である。眞實の神鏡は今の伊勢大神宮に奉齋されてゐる。

皇靈殿。長くも報本反始の太孝を申べさせられようとお心から皇祖神武天皇をはじめ奉り、御曆代の皇靈、皇后、皇妃、皇親の御靈を鎮祭し奉つてある所である

神殿 以前は八神殿と稱へられてゐた。即ち産日神、高御産日神、玉積産日神、生産日神、足産日神、大宮賣神、御食津神、事代主神の八神をお祀りしてある所からこの名があつたが、今日ではこの外凡ての天神、地神を奉齋し給ふといふ事である。

神嘉殿 社稷の神をまつらせられ、畏くも天皇が親ら新嘗祭をお行ひになる所である。

正殿 宮中に於ける凡ての御儀式に使用せらるゝ宮殿である。一月元旦には、兩陛下が御出御になつて、文武百官の朝賀をお受けになり、その他諸種の大典は必ず本殿で御舉行になるのである。御殿内人工の美を盡した結構な所であると承はる。

豊明殿 紀元節、天長節、新年宴會又は國賓及び外國使臣などに御陪食を賜ふ宮殿で、殿内の裝飾調度などいづれも壯美雄麗を極めたものである。

表御殿 正殿、豊明殿の外に鳳凰の間、御座所、竹の間、桐の間、牡丹の間、千

種の間、葡萄の間、その他數多の御室があつて、内謁見所、又は御學問所、皇后宮内謁見所、女官面謁所などが設けられてある御殿である。

奥御殿 宮中内での最も神聖な宮殿である。兩陛下の御居室、御座所、御寢殿などのある御殿であるが、その構造は質素であつて、檜の白木造と申す事である。

振天府 明治二十七八年の戦役及び臺灣の戦役に獲得した戦利品、紀念品又は兩役に於ける、戦死者、病死者の名録などを永久保存の御思召で、明治天皇の御代に建設せられたものである。

懷遠府 明治三十三年北清事變に關する、前記同様のお思召で建設されたものである。

建安府 振天府、懷遠府など、同じやうに明治三十七八年戦役に關する凡ての戦利品又は紀念品を藏せられる造營物である。

皇室及び御所・離宮

京都皇宮 京都市上京區にあつて安政三年に御造營になつたものである。皇室典範に依り、即位の大禮、大嘗會は必ず此の皇宮で行はせらるゝ定めになつてゐる。紫宸殿、清涼殿、常御殿、小御所、其の外大正四年の御大典の時新らしく御増築になつた宮殿がある。麝香の間、錦雞の間などは此の皇宮に設けられた御部室の名である。

東宮御所 京都市赤坂區にあつて、舊紀州侯の邸地であつたのを、明治五年離宮とされ、同じく四十一年に離宮内に壯麗なる洋館を造營せられ赤坂離宮と呼ばれてゐたが、近く東宮御所と定められ攝政宮及び良子女王殿下の御所となる。こゝは青山御所と相連る所であつて、御苑に菊花を培養され毎年秋季に觀菊の御會を催される。

皇子御所 舊細川侯邸であつたが明治二十四年に殿舎の御造營があつて高輪御殿と申したのである。大正三年に東宮御所となつたが今は皇子御所となつてゐる、京市芝區高輪西臺町にある。

青山御所 京都市赤坂區青山にあつて、紀州侯邸の一部と青山氏の邸地であつたが、明治七年に皇宮となつて英昭皇太后、昭憲皇太后がこれにお住居になつた。濱離宮 京都市京橋區の海邊にあつて後濱御殿と申し、明治三年に離宮となつた。芝離宮 京都市芝區にあつて舊紀州侯の別墅であつたが明治九年に離宮とせられた。

霞關離宮 京都市麴町區に在り、舊黒田侯邸であつたが明治八年に有栖川宮邸に收められ同三十七年に離宮とせられたのである。二條離宮 京都市上京區にあつて、舊二條城と稱へ禁裡の鎮營として徳川家康の築いたものである。明治元年に收められて大政官代となつたけれどその後二三の官

應となつて明治十七年に離宮とされた。

桂離宮 此の宮は其の昔豊臣秀吉が小堀遠州に命じて造營したものである。京都府葛野郡にあつて御苑は天下に比びない名苑であるといふ。明治十六年に離宮とせられた。

修學院離宮 京都府愛宕郡にあつて、明正天皇の頃徳川氏が後水尾天皇のために御茶屋を造營し、御逍遙の地にあてたものであるが、維新の後離宮とされたのである。

箱根離宮 神奈川縣足柄下郡箱根町芦の湖畔塔ヶ島にあるので塔ヶ島の離宮といはれてゐる。御建造物が湖水に面してゐる事であるから、眺望絶佳、殊に世に名高い逆さ富士の景は離宮西洋館御階上から見えるので最も佳であるといふ事である。名古屋離宮 名古屋市西區にあつて、舊名古屋城本丸であつた、此の城は大永年間に、今川氏親の築いたもので、徳川家康が之を修繕した。そして天主閣は加藤清

正の造營する所、棟上高く黄金の鏡のあるのは世人の知る所である。近時第三師團の兵營を置かれたけれど、明治二十六年に本丸を離宮にあてられたのである。武庫離宮 兵庫縣武庫郡須磨村字月見山にあり、舊西本願寺法主大谷伯の伊邸であつたが、明治四十一年に御料地に收められ、同四十四年十一月から建物を撤し新に離宮を御造營せられた。

祝 祭 日

祝日とか祭日とか定まつてゐる日には、國民は誰しも誠意を持つてお祝ひしお祭りしなくてはならない、元來日本は外國に比べて、祝日或は祭日に對して割合に冷淡である、これは先進國として最も恥かしい事である。甚だしい者になると、其れがどういふ意味の日であるかさへ心得ぬものがある、それでは國民の一人として威張る譯には行かない。次に簡単な説明を試みやう。

四方拜 (一月一日)年の始めの朝早く宮中の御庭で行はれる儀式であつて、天皇陛下は、午前五時三十分に束帯を召し、笏を執り、御草靴を穿かせ給ひ、中央の御座には簀薦を敷き、御屏風二雙を立て廻した神嘉殿南庭の御式場に出でさせられ、設けの玉座につき、御手づから玉申を奉り、先づ伊勢に鎮座まします皇太神宮を御拜せらる、次で西の方豊受大神、天神地祇、神武天皇の御陵、明治天皇の御陵、北の方氷川神社、西の方熱田神宮、加茂神社、男山八幡宮、東の方鹿島神社、香取神社、次で賢所、皇靈殿、神殿を御拜せられ、國家の幸福と安隱とを祈らせ給ふのである。

元始祭 (一月三日)此の日天皇陛下には、賢所、皇靈殿、神殿の三所で御親祭の儀を行はせ給ふ。この儀式は明治五年正月三日にこの名稱を定め、御親祭になつたのが最初で、「報本反始」の意味で行はせられるのである。

新年宴會 (一月五日)天皇陛下が豊明殿に出御あらせられて、親任首、外國使臣

等を集めて、宴を張り給ふ儀式である。

紀元節 (二月十一日) 四方拜及び天長節と共に三大節の一つで、昔神武天皇が我が國を御平定になつて、御即位の禮を行はせられて、君臨し給ふた第一の日に當るのである。大正十三年は紀元二千五百八十四年で、寶祚のかく悠久なのは萬國にその比がない。この祝日は明治五年に始まつたのである。

春季皇靈祭 (三月二十一日頃)春分の日即ち春の彼岸の中日に行はせられる儀式である。宮中でこの祭を行はせられるのは、明治二年に聖上百官を率ひて、神祇官に行幸し、天神地祇並に歷朝の皇靈を御親祭せられ、國是の大基礎を御定めになつた事を、御告げになつたのを初めとし、同じく十一年九月に至つて、嚴重な御儀式で御親祭になつたのが、遂に恒例となつて、毎年此の日に、天皇陛下親しく皇靈殿に行幸して、歴代の天皇、皇后、皇妃皇親及び後に尊號を奉つた天皇の神靈を御祀りになる事になつたのである。

神武天皇祭 (四月三日)此の日が神武天皇崩御の日に當るので、天皇の神靈を祀り奉るのである。明治四年以來祭日の一として引き續いて祀り奉る。

地久節 (六月二十五日)皇后陛下の御誕辰の日であるが、公定の儀式ではない。

明治天皇祭 (七月三十一日)明治大帝の崩御の日、神靈を祀り奉る儀式である。

天長節祭日 (八月卅一日)天皇陛下御誕辰の日を祭る日である。

秋季皇靈祭 (九月二十四日頃)秋分の日に行はれ春季皇靈祭同様の主旨で行はせられる。

神嘗祭 (十月十七日)新穀の熟したる時に初穂、拔穂等を伊勢の皇太神宮に供へ奉る御祭典で、陛下は宮中に遙拜をせられる、別に使者を伊勢神宮に遣はされ、神宮に新穀は勿論、新穀で作つた御酒、御饌を奉るを普通としてゐる。

天長節祝日 (十月卅一日)聖上陛下の御誕辰を祝賀し奉る日である。

新嘗祭 (十一月二十三日)新穀を神に供へ且つ天皇陛下も親しく之を聞食し、群

臣にも賜はる御祭典である。

何れも大祭日には國民一般、軒に國旗を掲げ業を休んで、敬意を表すと同時に、心から御祝ひし奉るのである。

外國の聖日

聖誕節 (クリスマス)と新年 (ニューイヤ)とは世界中何れの國でも守られてゐる。英吉利の様な聖公會國では、クリスマスの外に、多くの聖日を教會で規定してゐる、即ち受苦日、復活祭月曜日、聖靈降臨前次日等がある、これは英吉利の殖民地には大抵行はれてゐるし、又ローマのカトリック教會の聖日にもなつてゐる。

スペインでは聖誕節の外に、主出顯節、昇天節、聖母昇天節、諸聖徒祭、聖胎節祭等が定められてゐる。

アメリカの諸州では、スペインの聖日に尙は受苦日、聖體節を定めて之を守るの

が普通である。

スエーデンやプロシヤのやうなルーテル教派の諸國では主顯節、蒙告日、受苦日復活祭月曜日、昇天節、聖靈降節次日、四間齋初日、聖體節などが聖日となつてゐる。

諸官衙

内閣（宮城内）内閣は各省の大臣で組織し總理大臣が首班になつて、諸般の政務を附議する所である。

樞密院（宮城内）明治二十一年四月勅令で創設せられたもので、天皇が親しく御臨みになつて國務を諮詢し給ふ所である、行政とか立法の事に關して、天皇の最高顧問であるが、施政には干與する事がない。

内大臣府（宮城内）御璽、國璽を藏して、詔書、勅書、其の外内廷の文書に關す

る事務を掌る所であつて、内大臣は常侍輔弼を任とする所である。

宮内省（宮城内）帝室に關する一切の事務を總判し、諸部の各官を總督して華族及び、朝鮮の貴族を監督するので、宮内大臣は一切の任務を有するものである。

外務省（麴町區霞ヶ關一丁目）帝國と外國とに係はる政務の施行、外國に於ける帝國商事、及び外國に在留する帝國臣民に關すること、其の他帝國と外國とに關する一切の事を司る所であつて、外務大臣が之等の省務を指揮監督する。

大藏省（麴町區大手町一丁目）大藏大臣は政府の財務を總督して、會計、出納、租税、國債、貨幣、預金、銀行、信託、專賣等に關する事務を管理し、府縣郡市町村及び公共組合の財務を監督するのである。

内務省（麴町區大手町一丁目）内務大臣は神社地方行政、議員選舉、警察、土木衛生、地理、宗教出版著作權、賑恤及び救済に關する事務を管理し、臺灣總督、警視總監、北海道長官及び府縣知事を監督するのである。

陸軍省（麴町區永田町一丁目）我國の陸軍に關する總ての事を司る所で、陸軍大臣は陸軍の軍政を管理し、陸軍の軍人軍屬を統督する。

海軍省（麴町區霞ヶ關二丁目）我國海軍に關する總ての事を司る所で、海軍大臣は海軍々政を管理し、海軍々人及び軍屬を統督する。

元帥府 元帥府は軍事上に於ける最高顧問であつて、元帥府に列せられる陸海軍大將には特に元帥の稱號を賜はる。

軍事參議院 軍事參議院は帷幄の下に在つて、重要事務の諮詢に應ずる所であつて、諮詢を待つて參議會を開いてその意見を上奏する、參議官となるには元帥、陸海軍大臣、參謀總長、海軍々令部長並に特に軍事參議官に親補せられた陸海軍の將官である。

參謀本部（麴町區永田町一丁目）參謀本部は國防及び用兵を掌る所で、陸軍大將又は中將を以て參謀總長とする、天皇に直隸して帷幄の軍務に參畫する所である。

教育總監部（麴町區代官町）陸軍々隊教育に關する一切の事を規劃する所で、總監は天皇に直隸し、陸軍の大中將から親しく任せられるのである。

東京衛戍總督（麴町區隼町）東京の衛戍に關する勤務を統轄する所であつて、總監には陸軍大中將から親補せらる。

師團司令部 師團司令部は師團の所在地に設けてあつて、天皇に直隸して、陸軍中將を之に任せらる。部下の軍隊を統率し軍事に關する諸件を總轄し其の主管に係る各部團隊の動員計畫を掌る所である。

旅團司令部 旅團司令部は旅團所在地に設けてあつて、部下軍隊を統率し各隊の教育進歩を圖る所である。旅團長は旅團の所管に關する總ての事務を監督するのである。

聯隊區司令部 司令官は師團長に隸屬し、聯隊區内の徵兵事務又は召集事務を掌り、尙條規の定むる所によつて聯隊區内に於ける在郷陸軍々人を管轄し、其の服役

に關することを掌る所である。

要塞司令部 司令官は要塞所官の師團長に屬し、要塞の防禦計畫を擔任し、要塞備附の兵器、器具、材料及び防禦營造物を管理して軍需品の整備をし、防禦計畫上必要である軍隊の宿營、給費及び公共の保安に關し必要な事項を實行する方法を計畫する所である。

交通兵團司令部 (東京府豊多摩郡中野町) 交通兵團長は中將又は少將を以て任ずる、之は近衛師團長に屬し、交通兵隊の本科専門の教育に就ては、進歩の責に任じ、戦時の用法に關しては參謀總長の區處を受け交通兵に關する事項を調査し研究し、審議し又は立案する所である。

對島警備隊司令部 (長崎縣下縣郡鷓知) 司令官は第十二師團長に屬し、警備區内の警備、在島要塞の防禦を擔任し、條規の定める所に從つて警備區隊の徵兵事務及び召集事務を司り、在郷軍人及び補充兵役に在るものを管轄し、其の服役に關す

ることを掌る所である。

司法省 (麹町區西日比谷町) 司法大臣は裁判所及び検事局を監督し、檢察事務を指揮し、民事、刑事、訴訟事件、戶籍、監獄及び出獄人保護に關する事項、其の外種々の司法行政事務を管理する所である。

文部省 文部省は教育、學藝、宗教に關する事を掌り、文部大臣は是等に關する事務を管理する。

農商務省 (京橋區木挽町十丁目) 農工商、水産、林野、鑛山に關する事を掌る所で、農商務大臣は是等の事務を管理する。

逓信省 (京橋木挽町八丁目) 逓信大臣は郵便、小包郵便、鐵道、電信、電話、郵便爲替、郵便貯金、造船、水陸運輸に關する事業を管理し船舶海員を監督する。

海軍々令部 (海軍省構内) 國防、用兵に關する事を掌る所で、軍令部長は、天皇に直隸し、帷幄の機務に參與し、用兵に關することを參畫し、親裁の後之を海軍大

臣に移す、戦時大本營を置かれぬときに、作戰に關することは軍令部長これを傳達するのである。

鎮守府 我が帝國の海軍及び海面を別ちて五海軍區となし、軍港を定め各軍港に鎮守府をおき、鎮守府は出師の準備、防禦の計畫、海軍區の警備を掌るのである。司令長官は天皇に直隸し、麾下の艦船部隊を統率し、海軍大臣の命を承けて軍政を掌るのである。

朝鮮總督府 (朝鮮京城) 朝鮮總督府は天皇に直隸して、諸般の政務を統轄し、委任の範圍内にて、陸海軍を統率し、朝鮮の防備の任に當る。

臺灣總督府 (臺灣臺北) 臺灣總督は其の委任の範圍内で陸海軍を統率し、内閣總理大臣の監督を受け諸般の政務を提理する、總督府では總督官房、民政部、陸軍部海軍幕僚を置いて島内に關する一切の政務を掌るのである。

樺太廳 (樺太豊原) 樺太廳長官は内閣總理大臣の指揮監督を受けて、法律命令を

執行し、部内の行政事務を管理するのである。

會計検査院 (麴町區大手町二丁目) 會計検査院は天皇に直隸し、國務大臣に對し特別の地位を有するものである。即ち官金の收入、官有物及び國債に關する計算を検査し、會計を監督する爲に設けらるものである。

行政裁判所 (麴町區紀尾井町) 行政裁判所は法律勅令に依り、行政裁判所に出訴を許した事件を審判する所である。

警視廳 (麴町區八重洲町二丁目) 警視廳は東京府下の警察及び消防の事を掌る所であつて、警視總監は主務大臣の指揮を承けて是等の事務を管轄するのである。

帝國議會

帝國議會は明治十四年の勅諭に従ひ、明治二十二年に帝國憲法の發布によつて設置せられた國家の立法機關であつて、明治二十三年始めて開かれたのである。貴族

院と衆議院とで組織せられてゐる、會期は三ヶ月を通過としてゐるけれども、必要の場合には勅令を以て延長せられる。臨時議會の會期は其の都度勅令を以て定められる。議會召集の勅令は少くとも四十日以前に發布となり、解散後の議會は五ヶ月以内に召集される、開院式は兩院成立の後、勅令で期日を定め貴族院で舉行せられるのである、閉會は勅令に依つて兩議院合會で行ふ事になつてゐる。

貴族院、(麴町區内幸町) 貴族院は帝國の政務に關する事件を審議する所である。議員となるものは(一)皇族、(二)公侯爵、(三)伯子男爵、(四)國家に功勞あり又は學識あるもの、中から特に勅任せらるるもの、(五)各府縣で土地又は工業商業に就いて多額の直接國税を納める者の中から互選して勅任せられた者を議員として貴族院を組織してゐる。員數には一定の制限があるけれども定數を有しない伯子男爵互選議員の數は選舉毎に勅命で定められる、皇族の男子は滿二十歳に達せられた御方は議席に列せられる、公侯爵を有てゐる者は滿二十五歳なれば必然議員

である。國家に勲勞があり又は學識のあるもので勅任せられたものは年齢滿三十歳以上の男子であつて、總員數百二十五人を越えない定めである、勅選議員、多額納税議員の數は有爵議員の數に超過する事は出来ない。

衆議院、(麴町區内幸町) 衆議院は貴族院と同じく帝國行政上の一機關である。衆議院は帝國豫算の先議權を有してゐる、この議員となるには一定の資格を有つてゐる選舉人によつて選ばれた年齢滿三十年以上の帝國臣民の中の男子である、その定員は三百八十一名である。

最近普通選舉法問題が多年の懸案となつてゐて、色々論及せられてゐるから、近き將來には普通選舉が實行せられるであらうが、今日の規則では衆議員を選舉するには次の要件にかなふものでなくてはならない。

- (一) 帝國臣民たる男子にして、年齢滿二十五年以上の者
- (二) 選舉人名簿調製の期日前滿一ヶ年以上、其の選舉區内に住所を有しなほ引

續き有する者

(三) 選舉人名簿調製の期日前滿一ケ年以上地租十圓以上、又は滿二年以上地租以外の直接國稅十圓以上、若しくは、地租と其の他の直接國稅とを通じ十圓以上を納め仍ほ引續き納むる者(家督相續に依り財産を取得したる者は其の財産につき被相續人のなしたる納稅を以て、其の者の納稅したるものと見做さる。)

兩院協議會 一方の議院が他の議院から廻附して來た議案に修正を加へたとき、他の議院が之に同意しない時は兩院協議會を開くのである。此の協議會は双方の議院から各十名以下の同數の委員を選出して協議するので、その員數は協議會の開會を要求する議院が定めるのである。議長副議長一人づゝ兩院から定めて、毎回交替でこの任にあたるのである。議事を開くには兩院の委員が三分の二以上出席するを要し、一方の議院の出席委員が他の議員の出席議員より多いときは、表決の際に抽

籤によつて超過した委員數だけ減するのである、協議會の議事は出席委員の過半數で決定し、可否を定めるには無名投票をして、若し同數である時は議長が採否を決する、この協議會は傍聽を許されない。

中央行政官廳

行政といふのは公共の安寧秩序を保ち、臣民の幸福を増進する爲に、役所を設けて大權及び法律を施すことをいふのである。其の役所を行政官廳といひ、我國の古制では太政官の下に八省あつて國勢を處理して來たのであるが、政權が武門に移つてからは之等の古制の官名は有名無實のものとなつて、徒に名譽の稱號となつてゐたのであるが、明治十八年に内閣の制度となると共に其の一部は復興せられ外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信、鐵道、宮内の十一省を設けられ、一般の政務を分掌する事になつた、然して宮内省は宮室に關する事務を掌る

のみであつて國勢には干與しない。

之等の中央行政官廳は互ひに聯絡を取つて、國運の發展と國民の福利とを計り、尙ほ、外國に對して帝國の位置を保持して行く事に努めてゐる。之に對しては各地方に地方官廳がある、即ち府縣廳の如きがそれである。

法律ごその種類

人々が國家の下にあつて共同生活を營み、永く平和を維持して行かうとするには國家は先づ人民の亂暴を抑へ人々を安堵させ、人命とか財産とかを保護しなくてはならない。國家は各人が互ひに利益を尊重し、侵す事のないやうに之を監督し、又國家全體の利益を害しない様に、其の權力を以て人民を支配することが必要である然しながら人智の進歩するにつれて國家の權力で禁制するべきものと人民の良心に一任して外力では禁制しないものとの別を生ずる、竟り之が道德と法律の區別の生

ずる所以である。

法律は人々の良心の制裁だけに打ち任せて置く事の出来ない人事を取締るもので國家が之を設けて強行するものである、法律には公法と私法の別があつて、公法とは吾々一個人と國家、府縣、郡市町村等の間にかかる關係を定めたもので、國際法、行政法、刑法、刑事訴訟法、民事訴訟法、選舉法の如きもので、私法といふのは吾人お互ひの間にかかる事の關係を定めたもので、民法商法の如きものである。

國際法 內國法に對して呼んだ名であつて公法と私法の二種がある、國際公法は以前に萬國公法といつたもので、即ち國家と國家との間の關係を定める公法で、國際私法といふのは、甲國の私人と乙國の私人との間の權利義務を裁斷するものである。

刑法 國家の安寧秩序を維持し、害悪を防厭する爲の刑罰を定め、如何なる行爲を犯罪とし、これにどんな刑罰を加へるかといふ事を定めた法律をいふのである。

全四編、四百三十條から成つてゐる。

民法 私權の發生、消滅、移轉、變更等に關する規則で、各人の身分、能力、及び財産上の權利義務を規定したものである。全部で五編から出來てゐて、第一編總則、第二編物權、第三編債權、第四編親族、第五編相續であつて千百四十六條から出來てゐる。

商法 一般の商事に適用せられる法律で、我が國の商法は民法と同様に一大難關を経て生れたものである。全五編即ち第一編總則、第二編會社、第三編商行爲、第四編手形、第五編海商で之が六百八十九條に別れてゐる。

刑事訴訟法 刑法その他刑事上の犯人を處分する手続きを規定した法律で、犯罪を調査、證明、審判し、刑罰を適用する順序方法手續を記してゐる。八編三百三十八條から成つてゐる。

民事訴訟法 民事の訴訟に關しては古くは無かつたが明治二十三年に發布せられ

たのが始めである。この法律は私權の保護を目的とするもので、物法上の權利に關する手続きを規定してゐる、全八編八百五條から成つてゐる。

我が國の法律で主なるものは上に述べた位のものである。勿論憲法は總ての根本をなすものであることは言ふ迄もない。

何れにしても吾々が生命財産等の保證を法律によつてせられるならば、吾々は法律に對しては充分の理解を有つて、尊重し服従しなくてはならない。

臣民の權利と義務

權利又は義務といふ語は道徳上、政治上、社交上等の事柄に就てよく用ひられる言葉であるけれども、法律の上では特別に一定の意味を有たせ、特に重要な觀念とせられてゐる。

法律上で權利といふのは、法律によつて定められ、且つその保護によつて人の受

ける利益のことである。未開時代には權利の觀念より先に、義務の觀念が發達するもので、随つて法律でも、悉くの人民が實際に行ふことの出来る義務を規定するものであつた。然し世の進歩發達するに伴ひ各人の間に權利の考が生じて、主權者も亦この個人の權利を認める様になつた。

我が國では憲法によつて國民の權利に保證を與へてゐる。

(一) 法令の定める資格によつて、文武官に登任せられ、其の他の公任に就く事を得。

(二) 信教の自由を有す。信教は人の本心の内部に存するものであつて、國法の干渉すべきものではないけれども、外部の行ひに表れる禮拜、説教、儀式、演説等は保安警察の規則に従はなくてはならない。

(三) 言論、著作、印行、集會、結社の自由がある、之は思想の交通を便にしその發達を計り人文を進歩させやうとする爲である。

(四) 請願の自由があつて、何人も上は君主から下は議員及び官衙に請願する事が出来る。

(五) 日本國民は法律の定めてゐる裁判官の裁判を受ける事が出来る。

(六) 自由及財産の安全が確保せられてゐる。

(七) 居住及び移轉の自由がある。

(八) 信書の秘密の權利がある。

(九) 所有權を決して侵されない權利がある。

(一〇) 逮捕、監禁、審問、處罰等は法律に因るのでなくては受けるものでない次に法律上の義務といふのは、法律が人に對してある事を爲せ、又は爲すべからず、と命令するものであつて、若し之に服従しない時は必ず制裁を受けなくてはならない。義務も亦權利と同じやうに、道徳上、政治上、社交上、に多く用ひられる言葉であるが、法律上の義務は、之等の様に自然に存在するものではなくて、法律

の規定によつて初めて生ずるものである。義務の種類は甚だ多い、権利の存する所には必ず義務の伴ふもので、例へば他人に所有の権利があれば、己には之を侵害してはならない義務がある、かやうな消極的の義務は一々列挙するに違がないが、積極的のものは自分の身上の義務と物上の義務とについて考へる事が出来る。身上の義務 主なるものは兵役の義務、市町村の名譽職に就く義務、即ち市町村の名譽職に選ばれた時は理由がなくて之を辭する事は出来ないのである。賦役に就く義務、之は急迫の事でないときには代人を出すとか金銭を出して免れる事は出来る。

物上の義務 之は國家の要求に應じて物を供給する義務であつて、納税の義務、土地收用に應ずる義務、徴發に應ずる義務などである。要するに義務は公私の區別なしに吾々の重んじなくてはならないものである、

吾々が權利を主張する裏面には必ず義務が伴ふものである事は充分に承知してなければならぬ、さうして當然與へられる權利は飽く迄主張するが、それと同時に又當然果さなければならぬ義務に對しては、完全に履行しなくてはならない、斯やうに權利と義務を完全に遂行する所に、安寧も幸福も秩序も存するものである、更に之が國運の隆盛となり國家の發展となるのである。

地方自治と府縣會

國家の行政には官治と自治との二つがある。自治の行政といふのは、自治の團體の行ふものであつて、法律の定めてある範圍内で一定の事務を處理するのである。自治團體といふのは一定の土地と人民からなつてゐる法人である。自治團體は議事と理事の機關を設けてゐる町村吏員、町村會議員、或は市・郡・府・縣會參事會がそれである。

府・縣・郡・市・町・村のやうに一定の土地によつてその團體共同の福利を増進

しやうとする團體を地方團體といふ。

市・町・村 行政作用を行ふ爲めに一定の土地區劃を設けた自治團體であつて、團體共同の福利を増進するのが目的である、住民は團體の財産を共有する権利があると共に、其の經費を分擔する義務がある。

二ケ年以上市町村の住民となつて其の費用を負擔し、年に二圓以上の地租或は直接國税を納める満二十五歳以上の獨立の男子を市町村の公民とする。公民は市町村の議員或は其の他の名譽職に就くことが出来る、市と町村の區別は人口の多少によるもので人口二萬五千以上の都會ならば市制を施す事が出来る、市町村には議會があつてその市町村自らの一切の事を決議する。

府縣 行政區劃の最も大きいもので、數郡、市或は島嶼を含んで、國民の公益を目的として立つてゐる獨立の自治團體であつて、内務大臣が直接に監督してゐる。

府縣には議事機關として府縣會、理事機關として、府縣參事會がある、府縣知事は

府縣會の決議、參事會の議決を執行する。

府縣會は市町村の公民の中で選舉權を有し、その府縣に一ケ年以上住居して直接國税十圓以上を納める者の中から選んだ議員で組織せられてゐる。任期は四年で、單記無記名の方法で各市郡から選出せられた名譽職である。その定員は人口の多少によつて一樣ではない。府縣會が決議する事項の主なもの、歳入出豫算、決議報告に關すること、法律命令に定める以外で使用料、手数料、府縣税、及び夫役、現品の賦課徵集、不動産の處分並びに買受、讓受、積立金穀等の設置及び處分、歳入出豫算以外に新たに義務を負擔し、或は權利を拋棄すること、財産及造營物の管理方法、その他法律命令により府縣會の權限に屬する事項等である、府縣會は知事が之を召集して公開するのが原則である。

府縣は行政區としては明治の初年からあつた。即ち藩といつたもので、明治十一年に府縣會の萌芽となり、それが明治二十三年に自治の團體となつたのである。

吾々帝國の臣民は必ず各種の地方自治團體の一員であつて、地方自治の實を擧げ
るには、大いに力を盡す義務があるのである。

選舉とその種類

選舉といふのは主に名譽職となるべき人物を選ぶと言ふ義である、選舉にも國會
議員、府縣郡會議員、市町村會議員など色々あるがいづれにせよ、とにかく選舉と
いふ以上は多數の中から或者を選び出すわけである。その選ばれる人、選ぶ人には
共に其の資格に相當の制限がある。又選舉法即ちその手續にも、色々な規定がある
選舉法の種類はその職によつて異ふけれど、その中の共通的なもの二三を擧げると
直接選舉 之は選舉人がすぐ其の議員を選ぶのを言ふ、今日は殆んどこの方法で
行ふ。

間接選舉 之は選舉人を選ぶのに更に人を選んでその人々に選舉させる方法であ

る。

普通選舉 之は選舉人の資格に、身分とか財産とかいふ社會上の制限を設けない
ものである、世界各國の中にはすでにこの方法で選舉を行つてゐる國々もある、わ
が國でも數年前から當局の間に重要な問題とされ、盛んに論議されてゐるが、何
れにしても政治上重大な問題である爲に幾多の波亂を生じ、今日尙その實施を見な
いのであるが、要するにこの選舉法が是であるといふ事は誰でもが認める所である
が、只その時機が第一の問題となつてゐるのである。近時殊にやかましく普選問題
が高唱せられ、論議せられてゐるから我が國に實行されるのも遠い將來ではあるま
いと想像せられる。愈々それが實施となつた暁には理想的の選舉法が行はれるわけ
である。

限定選舉 之は選舉人の資格に何等かの制限を設けるもので、今日の選舉法はす
べて之である。

記名 記名といふのは選舉投票上の區別から言ふので投票用紙に選舉人の氏名を記入するものである。

無記名 之は氏名を記入しないものを言ふ今日では一般にこの方法が多く行はれてゐる。

單記法 被選舉人一名を記入するもの。

連記法 選出されるべき數人を、一投票紙に記入させるもので之は多少壓制の弊を生じるのでだん／＼排斥せられる傾向がある。

選舉區 之は地域によつて、人數と選舉範圍とを限る區劃をいふ、之に大小はあつるけれど今日では、大選舉區にならうとする傾がある。

吾々が共同生活を營む上に於ては、何れの方面でも選舉法によつて代表者を選出し、それ等の代表者によつて事務を遂行しなくてはならない、よく吾々が耳にするやうな選舉法違反などの事實は、文明國人とし一等國の國民として實に恥づべき事

である、公平無私の考から最も適當と認め自分を代表して事務を執り得ると信ずる人を選出しなくてはならない。

兵役の義務

男子が一定の年齢に達すれば軍隊に服役するといふ事は、納税、教育と共に國民の三大義務として、帝國憲法に定められてある。憲法によれば満十七歳から満四十歳に至るまでの男子は、總て兵役の義務があるので、此の年限内を普通に、兵役義務年齢といつてゐる。

全兵役を分けて陸軍役と海軍役の二つとし更にそれを常備兵役、備後兵役、國民兵役の三種に分けてゐる。常備兵役といふのは、現に兵役に服してゐるもので、現役兵と豫備兵との二つがある、現役は陸軍が三年（中一年は歸休兵となるから實際軍隊に服役するのは二年である）、海軍が四年で、その服役が終ると、豫備兵となつ

て郷里に歸り、自由に職業に就いてゐるが、然し陸軍では四ヶ年四ヶ月、海軍では三ヶ年の間は時々召集して軍隊の教育を施すのである。

常備兵役を終つた者は各々郷里で一定の業務に従事し、一朝事あるときに、召集に應じて兵役に服する、之は後備兵役といつて、常備兵役を終つた者が、陸軍では十ヶ年海軍では五ヶ年の間これにあたるのである。

或年の所要の現役兵が定員よりも多くなると、その中の幾分かを補充兵役として陸軍では十二ヶ年四ヶ月、海軍では一ヶ年を服役せしめる。

國民兵役には、第一國民兵役と第二國民兵役とがあつて、陸軍では後備兵及び召集せられた補充兵で、その任務を終へたものを、海軍では後備兵役を終つた者を第一國民兵役として服役させる。尙ほ常備兵役、後備兵役、補充兵役、及び第一國民兵役に服する者以外を第二國民兵役としてゐる。國民兵が召集せられるやうな場合は國家の危険存亡にかゝはるやうな場合であるが、三十七八年日露戦役の際には、或

る地方では既に第一國民兵の召集を行つた程であつた。

其の他に一年志願兵とか、一年現役兵とかがある、前者は中等學校及び、それ以上の學校を卒業した者が服するので、後者は師範學校の卒業者が服するのである。

大帝國の男子と生れた者は要するに總てが兵役の大任を負つてゐるのであつて、平生から心掛けて、一朝有事の際には帝國の爲めに生命を投げ出す丈の覺悟と決心を持つてゐなくてはならない。我が國の兵隊が、戦ふ毎に勝利を得るといふ事は外國に見るやうな雇兵制度でないといふ事にもよるのであらうが、それよりも先づ國民の堅實なる志操が大いに力あるのである。

各種の租税

國家が其の職務を行ふに必要な収入を得る爲に、國家の權力で一般の人民から徴集する財を租税といふ。國家はその存立を維持し、國民の生命財産を保護し、其の

安寧と幸福とを増進するのが目的であるから、この目的を果す爲に、軍務、外交、司法、行政、財政、教育などの政務を行はなくてはならない。此の費用に充てる爲めに租税が生じたのである。即ち租税は國家が其の權力によつて政府に必要な収入を適當な標準によつて賦課するものである。

國税と府縣税 この區別は土地の範圍を標準として區別したもので、國税といふのは一國全體へ平等に賦課して、中央政府の收入とする租税で、府縣税といふのは地方税ともいつて一地方に限り賦課し、地方官廳の收入とする租税である。地租、所得税、營業税、酒税等は國税で、東京市特別税とか其の他の町村税の如きは何れも府縣税である。

直税と間税 之は租税の負擔の歸着點を標準として分類したもので、直税は租税を納めるその人が、實際の負擔者となる場合で、所得税、營業税などは直税である。間税は租税を納める人は只一時立替をするだけで、眞の租税は他人が負擔する場合

で酒税、砂糖税の如く物品製造者から上納はするが、實際は消費者が負擔するので之は間税である。

物品税と所得税 之は課税の目的物を標準として分類したもので、物品税は生産物を目的として賦課する租税である、この税は又實際消費者の負擔となるものであるから消費税ともいふ。酒税、砂糖税、醬油税、カルタ税などは之である。所得税は各人の所得に賦課する租税で一般所得税と特別所得税とがある。一般所得税は一般の各人の所得に課するもので、我が國の所得税の如きものである。特別所得税は特別の所得にのみ課するもので、例へば遺産相続税の如きものである。

其の他海關税 (關税) がある、關税の中には財政關税、保護關税、輸出税などがある。

教育の力

國民が凡てある程度まで一様に教育を受け、ある程度の道徳的、或は知的の修養を積むといふことは、國家の存續發展といふ方面から考へても、或は國民の福利を増進するといふ方面から考へても實に必要な事である。此の意味から國家は國民の教育を、その父兄の自由に一任しないで、之に嚴重な干渉を加へ、兒童がある年齢に達したなら、必ず國家が要求する所の最低限度の教育を受けさせる制度が各國に實施されてゐる、之を普通義務教育とか、強制教育とかいつてゐる。この制度は獨逸が始めたものであつて、我が國でも明治の初年から實施してゐる。即ち明治五年に學制の頒布があつて、一般の人民は必ず學問に従事しなくてはならないといふ事を布告し、同八年には小學校の學齡を滿六歳から滿十四歳までとし、更に同十二年には學齡兒童は少くとも十六ヶ月間は、必ず普通教育を受けるといふ事に定めたのである。

越えて明治十三年には義務教育の年限を三ヶ年に延長し、同十九年に學校令が發

布せられると同時に、義務教育年限を尋常小學校の四ヶ年に延長し、土地の事情によつては修業年限三ヶ年以内の小學簡易科といふものを置いて尋常小學校に代へる事を得させたのである。

明治廿三年の改正小學校令では義務教育の尋常小學校修業年限三ヶ年若しくは四ヶ年とし、三十三年には之を四ヶ年に一定し、且つその間は義務教育の本旨に鑑みて、授業料を取り立てない事にした。然るに時勢の進運は益々國民教育の必要を切實にし、四十年の三月に義務教育の年限を六ヶ年に延長し、保護者に向つてこの期間は必ず何等かの方法で尋常小學校の教科を修めなくてはならないといふ事にした。かやうに變遷して今日の如く六ヶ年になつたけれども、之を獨逸及び其の他の國に比較すると尙ほ非常に短い感じがある、然しこの問題は當局者に譲るとしても、吾々國民は一方に兵役の義務を果し、又納税の義務を履行すると同時に、國民の教育は一日も忽せにしてはならない、國民の教育程度の向上といふ事は國家の爲めで

あることよりも、寧ろ國民それ自身の爲めに重要な事である。
 以上國民の三大義務に就て概説したが、吾々は安寧と幸福とを望むならば、瞬時
 と雖もこの義務を忘つてはならない。

貸借の説明

貸借とは色々の事柄に使はれる言葉であるが、その意味は普通にいふ貸す事と借りる事とである。簿記上の貸借といふのは、すべての財産の増減變化といふような廣い意味に使はれ、その目的物が有體物であらうが、無體物であらうが、それは問はないけれども之は寧ろ特別の例と見るべきである。

民法上の貸借 之は言ひ換へれば法律上の貸借、即ち有物體の貸借の謂であつて消費、使用、貸借に三別される。

消費貸借 之は金錢とかその外すべて消費物の貸借で、もとく使用し盡される

のが目的であるから、貸借と稱して現物と同様のものを返還する義務はあるけれどもその所有權は使用者に移轉される。

使用貸借と賃貸借 之は無償又は有償で、物品の使用収益をする貸借で、之は現品を返さなければならぬ、故に純然たる貸借である。貸借は契約であり、同時に又權利義務である。即ち民法の物權篇には、消費、使用、賃貸借の名の下に之を契約とし規定してある。又債權篇では債權債務といふ名をつけてある。之は即ち權利義務としての貸借をいふのである。

經濟上の貸借 貸借を經濟上から見ると、貸借の契約も、權利も、又その目的物が價格を有すると否にかゝはらず貸借は直接生産には關係なく、即ち經濟上獨立の意味をもつてゐない。けれど之は信用を基礎として、生産の一要素である資本の供給を補助する事が多いから、そこで經濟上種々の問題をおこす様になる、資本の供給を補助するといふのは實に貸借唯一の生命で、又經濟上の貸借の本義といふべ

きものである。この意義の貸借は信用が最も大切な分子でなくてはならない。その主なものには個人の貸借、私法人の貸借、國家の貸借等がある。個人の貸借とは手形とかその他信用證券の様なものを言ふ。私法人の貸借とは會社の株券、社債券、銀行預金、貸附等を言ふ。國家の貸借とは公債の様なものを言ふ。貿易上の貸借 之は國際貸借といふ場合もあつて、上述の個人と個人とか、又は私法人とか國家とかの間に行はれる貸借に對して、國家と國家とを各々一まとめのものとして行ふ貸借であつて、輸出入の關係上から正金支拂の義務を負ふ國を債券國といひ、正金受取の權利のある方を債權國と言ふ。之も見方によれば一種の貸借で、債務國は何等かの方法によつて債務を決済する事になるのである。

戸籍の話

戸籍は略して籍ともいふ、親族關係、家族關係及び國民籍による各人の身分に關する事項を登録して之を公證するものである、だから戸籍は司法事務に屬する登記によく似たもので、たゞ戸籍の登記は私權の安固に關するばかりでなく、又公益とか秩序とかに關し、又各種の行政に大きな關係を有するものであるから、國家は各人に強要して、届出でさせ、若し怠つてゐる者には、或る制裁を加ふるのである。戸籍は戸籍吏が之を掌り、戸籍役場で之を取扱ふのである、戸籍吏は市町村長又は區長であつて、戸籍役場は市役所又は町村役場區役所にある。

身分に關する届出の事項といふのは、出生、嫡出子否認、私生子認知、養子縁組、養子縁縁、婚姻、離婚、後見、隱居、失踪、死亡、家督相續、推定家督相續人の廢除、家督相續人の指定、入籍離籍及び復籍拒絶、廢家及び絶家、分家及び廢絶家再興、國籍の得喪、氏名及び族稱の變更、身分登記の變更などである。

以上の届出は本籍地とするのを原則としてゐるが、届出人が本籍地外に在るとき

は、其の所在地の戸籍吏に届出でる特例がある、以上の届出では何人も怠つてはならない、もし怠つたときは前にも言つた様に政府は戸籍法の規定によつて處罰するのである。戸籍に關する事は國家が如何なる事業を營むにも、重要な事であるから平生から充分に了解してゐなくてはならない。

家族の定義

法律の上でいふ家といふのは有形の家とはかり限つてゐない、一つの戸籍の内にある者、即ち戸主と家族との團體をいふのである。だから一家の中に在る者で戸主以外の者は皆家族である、民法の七百三十二條には「戸主の親族で其の家にある者及び其の配偶者は之を家族とす」とある。戸主を變更した時には、舊戸主及び其の家族は、新しい戸主の家族となるのである、然し妾とか僕婢は家族ではない。家族は必ず戸主の家に生れたものか、他の家からその家へ籍を入れたものでなくてはな

らない、一度其の家に生れた者でも、戸主の同意を得てから他の家へ縁組した者は家族ではなくなる、その家族の間に生れた者でも庶子、私生兒は戸主の同意を得なくて家族となることは出来ない、この場合には庶子、私生兒は別に一家を創設しなくてはならない。其の家に生れた者で他家へ縁づいた者でも離婚又は離縁せられたときは、出生の家の家族となる。

家族の權利 我が國維新前には戸主に絶對の權利があつて家族は只服従する丈であつたが、維新後には、土地、公債證書、株券等も家族の名義となつて、その所有を確められ、他の動産に就ても家族の財産權を認むる様になつた、だから隠居などの場合には、確定の日附のある證書でその財産を保留する事が出来る。要するに家族が自分の名で得た財産は、特有財産ではあるけれども、實際戸主の財産だか、家族の財産だかわからないときには、戸主の財産だと推定する。又戸主の負債に對して家族の財産を差押へる事は出来ない、同様に家族の負債に對して、明らかに家族

の財産であるものでなくては差押へることは出来ない。家族は戸主に對しては扶養せられる権利を持つてゐる、戸主の方の側から言ふと戸主は家族を扶養して行く義務がある譯である、これは我が國の家督相續制から來たもので、即ち家督は一家一人の相續で、一家の財産は悉く相續人に移るものであるからである。然し近來では遺言によつて財産を數子に分與する事が行はれてゐる。とにかく一家は老ひも若きも共に心懸けて風波を起さぬ様にしなくてはならない。この家族制度こそは我が國が諸外國に對して大いに誇り得るところの特徴である。

財産とその種類

財産といふのは經濟上の價格をもつてゐるいろいろの物を、其の所有者から見た時に使ふ言葉である。つまり財産と言ふものは所有權の確定によつて始めて起るものである。例へば土地、家屋、金銀、衣服とか其の他すべて價格のある物を占有す

る時は此等のものは其の人の財産といふ事が出来るのである。けれど上古の様に、所有權が確定しなかつた場合に、廣漠たる原野に、自然に存在してゐる果實、樹木又は禽獸などは、何人の所有にも屬してゐないから之等を財産といふ事は出来ない故に財産と言ふのは或る人の占有する經濟上の財をいふのである。所有權は法律によつて確定されるもので、財政所有者は人間とばかり限られてはゐない、會社とか組合とか、とにかく法律上から人と見做されたもの即ち法人、又は國家、地方自治體等も之を所有し得る。

財産の制度 財産は必ずしも法律の保護がなくても所有する事は出来る、けれどもこの時は其の所有者は自己の腕力とか智力とかによつて保有しなければならぬ。従つて弱者は強者に掠奪される、従つてその所有權は確定してゐないわけである。しかし文明の進歩につれ、財産に關する制度といふものが必要になり、共有制度及び私有制度の二つが出來た。

共有制度 之は財産全部が國家とか社會とかの共有のもので個人としてはそれを利用する事は出来るけれど、永久に占有するとか又は個人の意志によつて自由に處分する事の出来ないのをいふ。

私有制度 之はその個人が自由に、しかも永久に占有し處分する事が出来る制度である。今日の文明諸國では大抵この制度が行はれ、各人の財産、所有權を重んじ法律によつて保護されてゐる。

財産の種類 財産は區別の標準によつて分類法が色々ある、その主なものは公有財産と私有財産、動産と不動産、使用財産と生産財産等である。

公有財産と私有財産とは所有者によつての分類法で國家、府縣市町村の様な公共體の所有に屬するのを公有財産といふ、私有財産といふのは個人又は會社、組合等の所有をいふのである。

動産と不動産とは財の性質から分けたもので、動産とは自由に移轉し得る貨物の

總稱で又不動産とは例へば土地の様な、之を外にうつす事の出来ない財産をいふ。

この區別は經濟上にはそんなに必要ではないが法律上使用されるものである。

使用財産と生産財産とはその利用を標準としたものである。使用財産とは直接に自己の欲望を充すために使用し得るもの、例へば住宅、食物、衣服の様なのを言ひ生産財産とは耕地、工場、機械の如く特に生産のために使用するものをいふ。

經濟の意義

經濟といふ言葉は普通に使はれる時には、儉約といふ意味になつてゐるけれど、學術上に用ふ時には單に儉約といふ様な意味ではない。

經濟の意義 學術上の意義は財を得て、之を用ひ又は之を交換して、人生の欲望を満足させようとする活動に、直接關係のある社會の現象をいふ、即ち生産といひ分配といひ交換といひ、消費といひ之等はすべて經濟に屬する社會現象である。

吾々が物質上の満足を求める爲の活動はすべて、經濟現象である。しかしその物質には所謂價格のあるものでなくてはならない。

經濟學と經濟術 經濟學とは財の生産、分配、交換、消費に關しての原理とか原則とかを研究するものである。即ち價格のある物件を生産するには、天然、勞力資本の三つがそろはなくてはならない事、その天然は生産の上にどんな効果があるか、又勞力や資本はどうであるとか、之等生産要素の性質や、産出力の増減等を研究したり、或は財の分配上に生ずる、賃金、利潤等の性質、その増減の原因、又は財の交換上に現はれる價格、貨幣、信用等に關係した理論を研究し、或は財の消費上に現はれる生産消費、奢侈等に關した原則を論及するのが經濟學の本旨である。即ち經濟學とは經濟現象に關して其の原因結果の關係を解き、且つ論議するものである。

經濟術といふのは、すべての經濟現象を正しくさせ且つ之を完全にさせる術で、

工業政策、農業政策、商業政策、社會政策など皆是である。

學者によつては經濟學を純正經濟學とし、經濟術を應用經濟學といつてゐる人もある。

犯罪とその種類

犯罪といふのは正義に反したり、又社會に害を及ぼしたりする行爲で、國家の法律で禁じてある事にあへて叛く事をいふ。之は法律上の犯罪である。道德上の犯罪行爲とは別種のものである。人の行爲には道德上の罪ではありながら、しかも法律上には罪を問はれない場合がある。又それと反對の事もある。

犯罪の種類 法律上の犯罪は色々の點から見て區別する事が出来る、まづ罪の輕重からわければ、重罪、輕罪、違警罪の三種に分れる。もし犯罪の状態からなら既遂犯と未遂犯とにわけられる。

既遂犯 之はすでにその犯罪を行つてしまつた後、例へば謀殺或は故殺をしてしまつて、最後の結果を生じてしまつたのを言ふ。

未遂犯 之は犯罪行為に着手し、未だその結果を生ずる迄にはならないもので、例へば人を殺さうとして何か障害があるとか、その外の理由のため殺意をとぐる事の出来なかつたやうな場合を言ふ。

この兩犯罪とも刑罪はまぬがれない、けれど未遂犯は勿論いくらか軽い。次に犯罪の性質から區別すると國事犯と常事犯とに分れる。

國事犯 之は内亂を企てるとか暴力を以て政府を轉覆するとかと國事に因る犯罪をいふ。

常事犯 殺人、竊盜、強盜、詐欺などの犯罪をいふ。

刑罰 以上の如き犯罪行為に對し制裁を爲す事をいふその種類は

重罪の刑罰 之には死刑、無期徒刑、有期徒刑、無期流刑、有期徒刑、重懲役

輕懲役、重禁獄、輕禁獄等に分れる。

輕罪の刑罰 之は重禁錮、輕禁錮、罰金等である。

違警罪の刑罰 之は拘留又は科料に處せられる場合をいふのである。

この外附加刑といふものがある、即ち公權剝奪、公權停止、監視、罰金、沒收等がある。

貨幣の話

貨幣は俗に「かね」とか「せに」とかいふ。すべて交換の媒介や價格の尺度となつて、社會全般に授受される價格のある物品をいふ。

貨幣の効用 貨幣の効用の中で最も大事なものは先づ第一には不便利な物々交換をのぞく事が出来る。第二には價格の本位となる事である。もし物々交換の場合には自分が持つてゐる品物と他人の持つてゐる品物とかへたいと思つても、もし先方が

自分の持つてゐる物を取引する事をいやがつたらその交換は行はれない。だからどうしても先方の品物の欲しい時には、先づ自分の所有品を先方の希望するものと交換して来て、その品物で更に自分の希望する物に交換しなければならぬのだからその手数は大へんなものである。しかもその上に尙價格の不一致といふ不便をまぬがれない。例へば甲と乙との需要供給は前途のやうな手数を經て投合したとしても自分の物は大へん高いのに、先方の物は安いといふ場合があるとしたら交換は行はれない。しかも物々交換の時には之をはかるべき價格の尺度がないから價格を表示する事が出来ない。けれど貨幣といふものがあれば、すべての物が貨幣によつてその價格を計量する事が出来るから極く簡單にしかも明確に、價格を表示する事が出来る、需要供給の投合に少しも困る事なく、大へん便利に出来る。第二の効用である所の價格の本位となる事は、貸借の場合に著しい。貨幣によつてすべて社會授受上の混雜を防ぐ事が出来る。

本位貨幣と補助貨幣 之はどちらにも鑄造した法貨である。
本位貨幣といふのはどんなに巨額の支拂に用つても受取る方で之を拒む事の出来ないもので、之は一國の價格計量本位で、我が國では金貨が本位貨幣である。
補助貨幣とは支拂取引の時に或定められた程度をこした時には之を受取る事を拒み得るものである。小額取引に使用して本位貨幣の補助をするもので、我が國の銀貨、白銅貨、青銅貨は皆是である。銀貨は一口十圓以下、その他は一口一圓以下の支拂に使用される。
本位貨幣が一國に一種の時は單本位制といひ二種の時は複本位制といふ。
實價貨幣と名目貨幣 實價貨幣といふのはその貨幣の地金の價格と比較して殆んど差のないものをいふ、我が國の金貨は之である。
名目貨幣といふのは貨幣の價格が地金の價格より大きいもので、我が國の銀貨や銅貨は之である。

附註 貨幣の眞物と贋物とを見わけるのは先づ之を板の上に落し、その響に注意をする。金銀貨の音は軽く清んでゐるからすぐきゝわけられる、更に比重を計つて見れば最も確にわかる。

別に兌換券といふ代用貨幣がある。即ち紙幣である。

切手の話

切手は金錢の代用となるもので之には二種類ある。一つは誰でも知つてゐる郵便切手で、他の一つは商品切手である。

郵便切手 之は手紙や小包に貼つたり電報にはつたりする。形は誰でも知つてゐる様に一定の形に造られた小さい紙片である。五厘が最低で一圓まで、その間に色々な種類がある。この外紀念切手などいふ特別な物を加へると現在通用してゐるものが三十種以上ある。郵便切手が初めて發行されたのは、明治四年の三月で初

めは日本内地と外國とによつて切手が異つてゐたけれど、後内外共に同一の切手を貼ればよいやうになり大へん便利になつた。最初發行されたのは四十八文（後に五厘）二百文（後に二錢）五百文（後に五錢）の四種でどれも名稱が改まつて今日でも使はれてゐる。

五年九月には十錢、二十錢、三十錢の三種が發行され、六年四月には四錢、七月一月には六錢を發行され、八年一月になつて十二錢、十五錢、四十五錢が發行された。かくして明治十年六月に我が國は萬國郵便聯合に加盟して、その規約によつて同年十一月に八錢切手が新しく發行された。之は初の中は外國郵便物のみに使はれてゐたが後に内地にも使はれるやうになつた。十二年六月に三錢と五錢が發行され二十一年三月に二十五錢と一圓とが發行された。

この年に郵便規則に大改革を加へられ、今迄發行されたもの、中六錢、十二錢、四十五錢が廢され又内外共用されるやうになつたのもこの年からである。その後多

少の變改があり一錢五厘及び各種の紀念切手などが發行された。最初から現今に至るまでに發行された切手の種類は實に百數十種に上るといふ事である。

商品切手 之は専ら商家から出し、現品の代りに進物に使はれる。物品を他に贈る場合に先方の嗜好、適否等を判断するのは中々むづかしい。しかも物によつては腐敗するおそれのある物もある。切手を品物の代りとして贈れば、いつでもその商家で、その價格に相當する物なら何でも得られるから、大へん便利なものである。東京をはじめ各地方の有名な商店では大てい之を發行してゐる、その中名高いものは日本橋の「イ」の鯉節切手、三越、白木屋、松屋、松坂屋、高島屋等の商品切手である。又所によつては各商店が聯合して共通の切手を出す事もある。

爲替の話

爲替といふのは交換の意味で甲の地で或人が郵便局に行つて金を渡し、乙の地の

人がそれと同額の金を郵便局から受取る事で遠くはなれた土地とか、又持つて行く事の出来ない時に金を送る方法である。現今では爲替は郵便事務と共に政府營業の一つに屬してゐる。しかし銀行でも爲替を取扱ふ。

方法 今甲地の人が乙地の人に金を送りたいと思つた時は先づ其の金を甲地の郵便局に持つて行つて託す。郵便局では預證と金券とを渡す。この預證は政府の責任を明らかにしたもので、金券は表記の金を政府から交付する所の手形である。そこで甲は預證を保存しておき、手形を乙に送る。乙はこの手形を持つて郵便局から表記の金額をうけ取る事が出来る之を郵便爲替といふ。

種類 種類は小爲替と通常爲替とに分れてゐる。

小爲替とは五圓以下をいふ。雙方の手數が大へん簡単な方法である。

通常爲替といふのは五圓以上五十圓迄を取扱ふ。それ以上は特定の場合の外は取扱はない。

電信爲替 之は金を迅速に送る方法で、非常に早く金員を必要とする人は電信によつて爲替手形を受取り、之を郵便局に持つて行つて直ちに郵便局で金と交換する事が出来るのである。

規則 郵便局爲替の制限、金額、爲替料は特別に定められたものを除く外は、小爲替、通常爲替、電信爲替によつて等差がある。

小爲替は金五圓以下で爲替料は三錢、

通常爲替は金五十圓以下で、爲替料は十圓以内は六錢、二十圓以内は十錢、三十圓以内は十五錢、四十圓以内は十八錢、五十圓以内は二十二錢である。

電信爲替も金五十圓以下で爲替料は、十圓以内は三十錢、二十圓以内は三十五錢三十圓以内は四十錢、四十圓以内は四十五錢、五十圓以内は五十錢である。

小爲替及び通常爲替の金額には厘位未滿、電信爲替の金額には圓位未滿の端數をつける事は出来ない。又郵便爲替の差出人及び受取人は各一名に限られてゐる。

讓渡 小爲替證書に受取人の指定してない時は之を誰にでも讓渡す事が出来るけれどその他の郵便爲替證書は讓渡す事は出来ない。

爲替證書の失効、郵便爲替證書は電信、通常爲替は發行日から九十日、小爲替は六十日の間は有効である。しかし千島、琉球、小笠原島、伊豆諸島、臺灣にある郵便局と取組んだものは有効期間は百二十日である。但し各々の一國の中、又は一島内で取組んだのはこの限りではない。千島の郵便局と取組んだ通常電信の爲替證書は毎年十二月一日から、翌年の四月三十日迄はその有効期間に數へない事になつてゐる。

郵便爲替證書の有効期間を經過してしまつた時、又は證書をなくしてしまつた時は差出人か受取人は命令の定めた所に従つて再度證書の交附、又は爲替金の拂渡を請求する事が出来る、又郵便爲替有効期間の満了の日から、滿三年の間にこの請求をしないと、その爲替金は國庫の所有になつてしまふ。再度證書を發行した時は原

の證書は無効になる。

拂渡停延 通常爲替證書違式の時と、通常爲替振出請求書違式の時と、通常爲替振出請求書未達の時、及び通常爲替證書と通常爲替振出請求書と金額が符合しない時と拂渡資金缺乏の時の五つの場合には爲替の拂渡しを停延する。

拂渡局所の變遷 通常爲替の差出人又は受取人は拂渡郵便局所の變更を請求する事が出来る。その料金は一口六錢である。

電信爲替 電信爲替の時には拂渡郵便局が電信を取扱はない時は、その爲替に關係しての通報は郵便接續の方法による。電信爲替の差出人は、至急電報の取扱、又は郵便接續の場合に、別配達の請求をする事が出来る。この時は料金として別に至急電報の取扱に對しては四十錢、別配達の取扱に對しては、それに相當する定められた金額を納めるのである。

居宅拂 爲替の差出人又は受取人は、その居宅拂を請求する事が出来る。然し

差出人は爲替振出後に、小爲替受取人の爲めに此の請求をする事は出来ない。この請求に對する料金は一口につき通常、電信爲替は四十錢、小爲替は二錢である。
拂渡濟通知 郵便爲替の差出人は、振出の時に、郵便又は電信による、爲替金拂渡濟の通知を請求する事が出来る。その料金は一口郵便によるものは三錢、電信によるものは、その電報料に相當する金額を納めればよい。
尙、大金を送る時には銀行に託すのが便利である、銀行では大てい無料で爲替を取扱ふ。

學位の話

學位は法學博士、醫學博士、藥學博士、工學博士、文學博士、理學博士、農學博士、林學博士、獸醫學博士、の九で、文部大臣によつて左の四種のものに授けられる。

(一)帝國大學大學院に入り、定規の試験を経たもの。
 (二)論文を提出して學位を請求し、帝國大學分科大學教授會で前者即ち(一)と同
 等以上の學力ありと認められたもの。

(三)博士會で學位を授くべき學力ありと認められたもの。

(四)各大學總長の推薦した當該大學分科大學教授以上の四種に相當する者に學位
 を授けられる。

論文を提出して學位を得ようとする者は、その専攻した學科の範圍内に屬した自
 著の論文一編に履歷書を添へ、右論文の審査を受くべき各大學分科大學教授會を
 指定し、文部大臣に申請するのである。其の申請書には、上記論文の外に他の論文
 も附加して提出する事が出来る。博士會は各學科別に組織され、其の會員中から會
 長を互選して文部大臣の認可を受ける。文部大臣は必要ありと認められた時又は會長の
 具申を待つて博士會を召集する。會員過半數の出席があつて初めて其の會は成立す

る。出席會員三分の二以上の同意によつて學位の授與を決定する。又學位を汚辱す
 る行爲があつたものから學位を褫奪しようとする時には、文部大臣は博士會員出席
 數の四分の三以上の同意を得なければならぬ。

勳章の話

勳章 勳章は勳績及び功勞のある者を賞する爲に明治八年に初めて設定されたも
 のである。その始めは一等から八等まで、あつたが、同九年大勳位菊花大綬章、大
 勳位菊花章、同二十一年に勳一等旭日桐花大綬章、瑞寶章、寶冠章、大勳位菊
 花頸飾、同二十三年に將來の武功拔群なる者に授與し、且つ忠勇を獎勵なさんとの
 趣旨で金鷄勳章を設定された、即ち勳章の種類は左の通りである。

大勳位菊花章頸飾、大勳位菊花大綬章、大勳位菊花章、

勳一等旭日桐花大綬章、同副章

旭日章

(勳一等より勳六等まで)

桐葉章

(勳七等勳八等)

寶冠章

(勳一等より八等まで、一等副章)

瑞寶章

(勳一等より勳八等まで)

金鵝章

(功一級より功七級まで)

以上の外に褒章の四種がある。

紅綬章は自己の危険を顧す人命を救助したるもの。

綠綬章は德行卓絶で民衆の模範となる者。

藍綬章は學術技藝上の發明改良又は公衆の利益を興し或は共同の事務に勉勵し勞

功の顯著なる者。

以上三種は明治十四年の制定に係り、上記の行動に相當するものに賜はるものである。

黃綬章は明治二十年の臨時の制定になれるものである。即ちその當時は海防が急であつたので資を献じて其の事を賛助した者に賜つたものである。

位階の話

位階は天皇から御下しになる譽れの稱號であつて正一位から從八位までの十六階になつてゐる、之を賜るのを叙といひ、叙位の旨を記した文書を位記といふ。位記は華族勅奏任官、及び國家に功勞のあるもの、又は表彰するに足る功績のある者に授けられ、從四位以上は勅授で宮内大臣が奉じ、正五位以下は奏授とし宮内大臣が之を宣する事になつてゐる。然し位階奉宣の事は通常華族及び宮内省に限り宮内大臣が行ふけれども、其の他は總理大臣の奏問裁可の上、宮内大臣が奉宣するのが常である。又有爵者は其の爵に准じて從四位以上の禮遇を受ける、即ち公爵は從一位侯爵は正二位、伯爵は從二位、子爵は正三位、男爵は正從四位に相當するのである。

有位者の待遇 有位者の中で六位以上のものは、三大節及大祭日に宮中に参賀して拜調が許される。又三位以上の者は、新年宴會、紀元節、天長節式日等に、宮中の御宴に陪する事が出来る。

位記返上 有位者の體面を汚すやうな事をするとか、又は刑法で禁錮以上の刑に處せられるとかした時には、位階は返上しなくてはならない。

爵位局 宮内省に爵位局を置いて、爵位とか華族に關する事務を官理する、だから有位有爵者は總てその身分に關して同局の手續を経るのである。

官等の話

官吏は天皇から國家の事務を命せられたもので、其の事務の輕重によつて高下の別があり、随つて任命の手續きも異つてそれ／＼差等がある、之を官等といふ。言ひ換へると官等といふのは、官吏を任官の形式上から區別する方法に外ならない。

官吏を分けて高等官及び判任官の二とし、更に高等官を分けて勅任官と奏任官となる、別に高等官々等といふものがある、即ち勅任官は高等官一等及び二等であつて、奏任官は高等官三等乃至九等に相當するものである。

親任官 天皇の親任式によつて任命せられるもので、親任式は宮中に於て行はれ本人を天皇の御前に召し出して親しく任官の御沙汰がある、それから後天皇が親署し、總理大臣又は首座の大臣の副署した辭令書が交附せられる。今日國家並に宮廷の官職の最高級にあるものは大抵親任官である。例へば國務大臣、臺灣總督府、陸海軍大將、樞密院議長及び顧問官、會計検査院長、宮内大臣及び侍從長等である。

普通勅任官及び奏任官 普通の勅任官とは、御靈を押しした辭令書をもつて任命の手續きをするものと言ひ、奏任官とは天皇が大臣の奏薦を待つて、任命せらるゝもので、總理大臣これを奏薦し、或は他の大臣が總理大臣を経て裁可を仰ぐのである外國の例では勅任官は各省大臣の部下に立たないで獨立して一應に長たるものである。

る。之に反して各省の官吏は皆奏任官であるが我が國では各省の局長に至る迄之を勅任官としてゐる。

判任官 各省大臣の選任によつて任命せられるものであるが、眞の任命者は天皇であつて、大臣は只之を委任せられたに過ぎない。國法上の地位に到つては、判任官も他の官吏も異なる所はないが、行政法上では自ら事務を處決する權能がない、随つて又上官に對して事務上の責任を負ふ外、上官と共に責任を分つことはない。

特別保護建造物と國寶

社寺の建造物又は寶物の類で、歴史の證徴となるものとか、由緒の特殊なものとか或は製作の優秀なものは、古社寺保有會に諮詢した上で内務大臣がその建造物を特別保護建造物とし、之に國寶の資格を與へる事にしてゐる。此の建造物とか、寶物となつたものは之を藏する社寺に於いて維持修理を困難とする時には、國費を以

てその費用の半額を補助し、修理を加へて保存することになつてゐる、尙特別の事情のあるものには社寺の負擔を更に輕減される事もある。尙この特別保護建造物又は國寶は之を處分する事は出来ない。又之を差押へる事も出来ない、只内務大臣の許可を経た場合に公開の展覽場に出陳することが出来る、官立又は公立の博物館に對しては内務大臣の命によつて社寺は國寶を出陳する義務を持つてゐる。

神宮と神社

伊勢神宮 内宮、外宮を併せて伊勢神宮と稱し奉るのである。内宮とは皇祖天照皇大神をまつり、外宮とは豊受大神をまつてゐる、その初め垂仁天皇の御宇、皇女倭姫尊が神器を奉じて大和の國笠縫邑から諸國を巡幸されたが同天皇の二十六年の秋九月、遂に宇治の五十鈴の川上の地を大宮地とお定めになつたのである。今の内宮は引續き鎮座ましく今日に至つた。外宮は皇大神宮鎮座を距ること四百

八十一年の後、雄略天皇の御宇、皇大神宮の御神託により同天皇の二十二年秋九月丹波の國與佐麻奈爲原から今の太皇太后に迎へ奉つて今日に及んだのである。別宮は内宮に九ヶ所、外即ち四ヶ所あつて、此の外兩宮に屬する攝社、末社、又は所管社百餘ヶ所あつて、新年、神嘗、新嘗の各祭には奉幣の爲め勅使を參向させられ、儀仗兵を派遣させられる。兩宮とも神殿はすべて神明造で太古の型を存じて威儀莊嚴を極めてゐる。その御造營は天武天皇の御宇、式年を定められ、二十年毎に之を行はせられるを例として、今日まで更に變る事なく行つて來た。實に我が國臣民たるものは崇拜の念一日として忘れる事の出來ない神宮である。

官國幣社、皇統の祖神、又は皇位繼承せられた者を奉祀するのを官幣社といふ。國土經營の上に功勞のあつたものを祀つたのを國幣社といふのである。すべて祭神の功績又は神社由緒によつて大、中、小の三社に分つてゐる。國亂平定に功績ある人々をまつたものを、別格官幣社といふ、新年、新嘗の兩祭には官國幣社を通じ

て、皇室から幣帛料を下賜される事になつてゐるが、例祭には官幣社は皇室から、國幣社は國庫から幣帛料を下附されるのである。府縣社には府縣から、郷社には郡市から、町村社には市町村から幣帛料を供進する事になつてゐる。

人生の紀念日と祝日

「人生僅かに五十年」といつた時代は古くなつて、今日の人間は少くとも百歳を以て理想としなくては駄目だ、五十歳といへばまだく働き盛りである。その長い人生の中には色々の紀念や祝賀がある、世間の人は大抵自分の紀念日や祝賀日を忘れてゐる。

七夜の祝 生れて七日目の夜の祝であるが關西では六日目に祝ふ風がある、然し關東關西何れも此の日に命名式を行ふ。

宮まわり 生れて百日目に當る日で、産土の神に詣づるのである。所によつては

三十日目或は七十五日目に往ふ地方もある。

五十日の祝(いかの祝) 生れて五十日目の祝

百日の祝(もゝかの祝) 生れて百日目の祝

いひぞめの祝 生れて百二十日目に初めて御飯を食はせる儀式である。

初誕生 一年過ぎて最初の生れ日の祝

初節供 生れてから初めて迎へる節供

七五三の祝 男子は三歳(袴着の祝)と五歳に、女子は三歳(髪置の祝)と七歳

帯解の祝に、その年の十一月十五日に新しい着物を着せて氏神(普通は産土の神)

へ参詣するのである。

着帯の祝 懐妊して五月目に帯を締める式で岩田帯の祝ともいふ。

賀の祝 之はもと支那の風習で、我が國へは奈良朝の頃に傳つた。四十歳が初め

で五十、六十、七十、八十、九十と十年毎に行ふのであつたが足利時代の末からは

四十二、六十一、七十七、八十八と祝ふようになった。

還暦の祝 本卦返りともいつて、六十の干支が一週して元に還るのを祝ふ

古稀 支那の詩人杜甫の曲江詩に『朝回日日典春衣。每到江頭盡醉飯。酒債尋常

行處有。人生七十古來稀』とある所から七十を祝ふのである。

喜の字 又は喜壽ともいつて、七十七を崩して書くと喜の字と讀まれる所から七

十七歳を祝ふのである。

米壽 八十八は米といふ字になるから、古稀の祝に對して大誕の賀といふ。

この外に人は生れて七歳を悼(憐愛の意味)十歳を幼、十五歳を成童、二十歳を弱

三十歳を壯、四十歳を強、五十歳を艾、六十歳を耆、七十歳を老、八十歳を耄、九

十歳を願、百歳を期といふやうな年齒の稱がある。

暦の話

時 私共の住んでゐる地球は太陽を中心にして、一刻も休まないで絶えずまわつてゐる、丁度獨樂の様くわいてんに廻轉しながら太陽を廻るのであつて、これを自轉じてんといふ、一自轉するには凡そ二十三時五十六分ばかりかゝる、斯やうにまわつてゐる中に太陽に向つた方は明るくて晝になり、反對の方は暗くて夜になる、曆こよみの上で一日といふのはこの一自轉の時間を言ふのである、二十三時五十六分では色々に面倒めんどうだから二十四時間として、それを一日としたのである。

一日の中で地球上のある地が丁度太陽の眞下へ來たとき、言ひ換へると太陽が或る地の丁度眞上へ來たとき、その土地では正午といふ、だから眞實の正午はだんだん移つて行くのである。

然しそんなに正午が土地土地によつて違つては不便が多くて困るから、曆の上では便利なように工夫してゐる。即ち日本では明石あかしの近くを通つてゐる子午線しごせんの眞上に太陽が來たときに、日本全國共通きやうつうの正午として、之を中央標準時ちゆうおうひょうじゆんじと名づけてゐる

所が我國の様に東から西へ長く横よこたはつてゐる國では、全國共通の正午にすると、東の果はたと西の端はしとは餘り違ふから、そこで、琉球の先島群島のあたりを通過する子午線の上に太陽の來る時を正午とし、之を西部標準時せいぶひょうじゆんじといつてゐる。

だから中央標準時ちゆうおうひょうじゆんじと西部標準時との間には一時間の差がある、段々地球が廻轉して、つまり太陽がまわつて行つて、全く反對はんたいの子午線の眞上に太陽が來るとそれを眞夜中まゐやちゆうといふ、正午から眞夜中までを午後ごごといひ、眞夜中から正午までを午前ごぜんといふ。そこで二十四時間を正午と眞夜中で二分して、午前と午後と各々十二時間宛に分ける。舊ふる曆では一晝夜を十二に分け、正午と眞夜中を各々九つといひ、それから二時間宛飛んで數へ四つ時に終つてゐる。

えと(干支) 甲乙丙丁戊己庚辛壬癸の十を十干じゆんといひ、子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥に配したものを十二支じふにしといふ所から、十干と十二支とを配合したものをえと(干支)といつて、年月日時等に充て、之を使つてゐる。

一月の長さ 一ヶ月の長さは太陽暦では三十一日と三十日とに分け三十一日の月を大の月といひ、三十日の月を小の月といふ、別に二月は二十八日で之を平年といひ四年目毎に閏年といつて二月が廿九日である、閏年は一年が三百六十五日五時四十八分四十六秒である所から、それが四年目毎に一日となつて、二月に閏を生ずるのである。

一年の長さ 太陽暦では、太陽が地球の赤道と黄道との交叉してゐる所を春分點と名づけるところから、次第に北の方に行つて、そこから更に降つて春分點の所を通過して南極の方に進み、更に、もとの春分點の所にめぐり歸る時間即ち三百六十五日五時四十八分四十六秒餘を回歸年と名づけ、その端數を切りすて、平均三百六十五日として、之を一年の長さとするのである。

朔 太陽は天の中央にあつて、地球はその周圍を橢圓形の軌道を畫いて廻るのである。之を地球の公轉といふ。月は又、地球を中心にして圓を畫いて廻る、その間

に、太陽と地球との間に月が、丁度圓子を申にさした様に一直線上、又は一直線に近い位置にめぐり合ふ時がある。この場合には、地球に面する月の半面は、太陽の光をうけないからまつ黒になる、この時を朔と言ひ、太陰暦では各月の始めとする月の大小 太陽暦では月の大小は、次の様にきめてあつて年々によつて變る事はない。

大、一月、三月、五月、七月、八月、十月、十二月、
小、二月、四月、六月、九月、十一月、

閏 太陽暦では、前述の如く地球が太陽を一周する時間三百六十五日五時四十八分四十六秒のうちを切りすて、三百六十五日を一年としてゐる。故にその端數も凡そ四年目には、つもつて一日の差となる。之をそのままにしておくと實際の地球の運行と相違し、随つて氣節などに相違を來たすから、之を補ふために、四年目に一日の閏をおき、二月の末に加へて、二十九日とする。しかし四年目毎に閏日をお

くと、實際地球の一日轉に要する時間二十三時五十六分餘を二十四時間とする爲に四百年の間に三日だけ、地球の實際の運行が曆面の事實よりおくれる事になる。この過不及をふせぐために次の様な法則が立てられてある。

『西洋紀元年數の四で割り切れる數を閏年とする。西洋紀元年數の終りに零が二つつく年は、四百で割り切れる年だけを閏年として、割り切れない年を平年とする』
 氣節 地球はいつも二三、五度ばかり傾いて太陽の周圍を隋圓形の軌道を書いて運行する、之を地球の公轉といふ。これによりて氣節の寒暖が生ずる様になる。太陽が南の方からめぐつて来て、地球の赤道と黄道と交叉する所に直射する時は、氣候が中和して、晝夜の長さも等分になる。これは毎年三月二十一、二日の頃で春分といふ。これから太陽はだん／＼北へ進んで極點に達した時は、晝が最も長く氣候極暑の時で夏至といふ、毎年六月二十一日頃である。こゝから太陽が再び南へ向つてもとの春分點に來る時を秋分といひ毎年九月二十三日頃である。この時は春分と

同じく晝夜の長さ等しく氣候中和である。

更に太陽が南下して極點に達した時が冬至で氣候は最も寒く、晝が最も短い毎年十二月廿一、二日頃である。尙黄道を十二等分にして、その一つ／＼を宮と稱し、その各宮の初めに、太陽のめぐつて來る時を中氣とし、その兩側の所にある時を節とし、中氣が十二、節が十二、合計二十四氣節とする、その各稱は次の様である。但しもと支那の氣候によつて名をつけたのであるから我が國の氣候とは合はない所もある。

二十四氣 五日を一候とし三候を一氣としたもの、一年間の總稱で、即ち春は、立春、雨水、啓蟄、春分、清明、穀雨である。

立春 立春は正月の節で春の氣が立つ時。

雨水 雨水は正月の中氣で氷雪がとけて雨水が多くなる時。

啓蟄 啓蟄は二月の節で、冬ごもりした虫も出て來る時。

春分 春分は二月の中氣で、春の氣の最も盛な頃。
 清明 清明は三月の節で、春の氣になつて天地が晴れ渡る時。
 穀雨 穀雨は三月の中氣で、春雨が降つて穀物を生ずる時である。
 夏は立夏、小滿、芒種、夏至、小暑、大暑であつて
 立夏 立夏は四月の節で夏の氣の立つ時。
 小滿 小滿は四月の中氣で陽氣が天地に滿ちる時。
 芒種 芒種は五月の節で、芒のある穀類を植ゑる時。
 夏至 夏至は五月の中氣で、日の最も長い時。
 小暑 小暑は六月の節で、少し暑くなる時。
 大暑 大暑は六月の中氣で、暑氣の甚だしい時をいふ。
 秋は、立秋、處暑、白露、秋分、寒露、霜降に分れ
 立秋 立秋は七月の節で、秋の氣が立つ時。

處暑 處暑は七月の中氣で、暑さがだん／＼退く時。
 白露 白露は八月の節で、露の降る頃。
 秋分 秋分は八月の中氣で、秋の氣の最もみちた時。
 寒露 寒露は九月の節で、露も寒冷になる時。
 霜降 霜降とは九月の中氣で、霜の降る頃。
 冬は立冬、小雪、大雪、冬至、小寒、大寒に別れ
 立冬 立冬は十月の節で、冬の氣の立つ時。
 小雪 小雪は十月の中氣で雪が降りはじめの頃。
 大雪 大雪は十一月の節で雪が澤山降る頃。
 冬至 冬至は十一月の中氣で、日の最も短い時。
 小寒 小寒は十二月の節で、寒氣が次第に加はる頃。
 大寒 大寒は十二月の中氣で、寒氣が大へん加はる頃をいふ。

節分 之は冬と春との節が分れる時で、今は毎年二月のはじめにある。この時豆をうつ追儺の儀式は文武天皇の御代に起つたものである。

八十八夜 立春から八十八日目の日をいふ。春夏を送迎する頃である、農家では芒種の候とされてゐる。

入梅 梅雨の節に入ること、芒種の後の壬の日を入梅といひ、夏至の後の庚の日を出梅といひ、その間は凡そ三十日である。

半夏生 夏至の第二候即ち夏至から十一日目で、農家では田植の終期とする。薬草半夏の生する頃である。

盆 梵語 Pitr̥bhāna の音譯、盂蘭盆の略で倒懸と譯す。陰曆七月十五日に行ふ佛事で、食器に色々の食物を盛り、十方の佛僧に施し、そして七世及び現世の父母の倒懸の苦を救はうとするものである、支那では梁の武帝の時、我邦では齊明天皇の三年七月十五日、法興寺で行つたのが初である、

中元 陰曆七月十五日の稱で正月十五日を上元、十月十五日を下元といふのに對して用ひる、もと支那で中元を人間贖罪の日として道家の神を祀つたが、我が國に入つてからは佛家の盂蘭盆會と混じてしまつた。

土用 曆で十八日を一期とした季節の稱で一年に四度あり、春は清明後十三日から立夏まで、夏は小滿後十三日から立秋まで、秋は寒露後十三日から立冬まで、冬は小寒後十三日から立春までをいふ。

彼岸 梵語のハラミツで彼岸に到るの意である。

春分、秋分の日即ち彼岸の中日の前後三日、合せて七日間、彼岸會が行はる、中日は晝夜平分の日で、陰陽二氣過不足のない時節である。

社日 春分及び秋分に最も近い戊の日をいふ、春のを春社、秋のを秋社といふ。春には五穀の種を社に供へて其年の豊饒を祈り、秋には初穂を供へて成熟を祝する支那の祭日である。

二百十日、二百二十日、立春より二百十日と二百二十日にあたる日、二百十日は早稲花のさかり、二百二十日はなかくての花ざかり故農家では當日の風雨を大いに忌む、之は貞享の初年から曆に書き入れられるやうになつた。

庚申、八專の一で、かのえさるの事、金氣の旺盛なので天地萬物の氣が清肅になると言はれて、世の敬神する所となつた。

節句、節日に奉る供御の意、昔一年中の式日として、禁裏でも幕府でも、式典を執行された日で、近時の大祭日のやうなもの、即ち正月一日、三月三日、五月五日、七月七日、九月九日の五度で總稱して五節句といふ。

正月一日は現に四方拜があつて、宮中で文武官の参賀をうけられ、人民も亦相互に年賀をのべる。徳川時代には諸大名がそれごとく整裝行列して登城し將軍に参賀を申し上げた。

三月三日、重三とも上巳とも桃の節句とも言ひ、一般に雛祭を行ふ。女子の祝日

としてその生涯を祝ふのである。禁裏、幕府共に儀式があつた。

五月五日、端午とも菖蒲の節句とも言ひ、男子の祝日である。武者人形を飾り鯉幟をたて、立身を壽ぐ。武家式日の最も盛なものである。

七月七日、七夕節句の事。星祭りといつて牽牛織女をまつる。武家では將軍家へ参賀し宮中でも古來は星祭の儀式があつた。

九月九日、重陽とも菊の節句とも、栗の節句ともいふ。これは他の節句の様に重大ではない。

五節句共支那の古風で、古くからわが國に傳つたもので、もと季節の祭日なのを我が國で種々の風を混じたもの今では大祭日の外は國民一般の祝日は廢せられ、五節句は名のみを止めてゐる。宮中では一月一日の外は百官の参賀をうけられず、維新前とは大なる相違がある。故に單に明治以前の風俗として記すのみで、今日の新社會には四方拜の外は、上巳、端午の二節句が人民の自由に存してゐるのみである。

七曜日の由来

七曜といふのは曆こよみの上で私共に中々密接みつせつな關係くわんけいを有つてゐる、日曜を喜ぶのは官吏くわんでも會社員かいしゃいんでも小學校の子供でも更に變りはない、土曜に何となくのんびりするのはは學生ばかりではない、その七曜には各々由来がある。

日曜日 (Sunday) 之は *Sun's-day* 即ち太陽の日といふ意味で、太陽を崇拜すうはいする所から来たものである。

月曜日 (Monday) 之は *Mon's-day* 即ち月の日といふ意味で月を崇拜すうはいする所から来たのである。

火曜日 (Tuesday) 之は *Tiu's-day* の意味で、戦争と名譽めいよの神 *Tiu* の名から取つたである。

水曜日 (Wednesday) 之は *Weden's-day* の意味で、戦争と智慧ちゑと力の神 *Weden* (*Odin*)

の名から取つたものである。

木曜日 (Thursday) *Thor's-day* の意味で、大空と雷かみなりの神 *Thor* から取つたものである。

金曜日 (Friday) *Frigga's-day* の意味で *Odin* の妻つめ、諸神の母の *Frigga* から取つたものである。

土曜日 (Saturday) *Saterne's-day* の意味で、*Saturn* 神から取つたものである。

之等は總すべてサクソン古代の傳説から来たもので、其の日にはそれぞれ、その神に献けんげたものである。

月名の由来

太陽曆たいやうりきに使つてゐる月の名は、どうして出来たかを調べて見るに、西洋には西洋せいやう、東洋には東洋とうやう、各々の由来ゆらいがある。東洋といふのは主として日本及び支那の呼び方

である。

一月 睦月といふのは、人々が皆睦み合ふ月だといふ。意である西洋でジャニユアリーといふのはローマのジエーニスといふ天の門番をする神が總ての物の初めを司るといふので、一年の最初の月の名につけたのである。

二月 如月といふのは、餘寒が未だ酷しいので衣を更らに着るといふ意である。

西洋でフェヴリユアリーといふのは、ラテン語の淨めの月から取つたもので、昔はこの月の十五日に罪を淨める祭を行つたのである。

三月 彌生といふのは草木がいよく生ひ初めるといふ意味である。西洋でマーチといふのはローマのマルスといふ戦争の神から取つたものである。

四月 卯月といふのは丁度卯の花の盛り頃であるから、卯の花月といふのを略していふのである。西洋でエープリルといふのはラテン語のアプリルスから來たもので、地の開く意味である。

五月 皐月といふのは早苗の月の略で、田に苗を作る頃だからいふのである。西洋でメイといふのは、ラテン語のアイウスから來たもので、ローマでは此月の一日にアイアといふ女神を祭つたものである。

六月 水無月といふのは、暑くて水が涸れるからといふ。西洋でジユンといふのは、ローマ人が女神ジューノを祭つた所から來たのである。

七月 文月といふのは、穗合月の略で、草木の實が熟する意だといふ。西洋でジュライといふのは、ジュリアス・ケーザーが生れた月だから、それを取つて月の名としたのである。

八月 葉月とは葉の落ち初める月だからである。西洋でオーガストといふのは、ローマ帝オーガスチヌス・ケーザーが、此の月にはいつも大勝利を得たといふので、自分の名をつけたのである。

九月 長月といふのは、夜が段々長くなるからだといふ。西洋でセプテムバーと

いふのは、この月がローマの古い暦の七月に當るので七といふ字を取つたのである
十月 神無月といふのは、神々が出雲の大社に集まつて、諸國には神がゐなくな
るからだといひ、雷なし月だとも、また神穀を神に奉るから神嘗月だともいふ、西
洋で、オクトーバーといふのは、ローマの古い暦の八月にあたるのでその名をつけ
たのである。

十一月 霜月といふのは霜降り月の略だといふ。西洋でノーベンバーといふのは、
ローマの古い暦の九月に當るので九をつけたのだ。

十二月 師走といふのは年極月だといふ。西洋でデッセンバーといふのはローマ
の古い暦の十月に當るので、十をつけたのである。因にローマの古い暦は一年が十
ヶ月であつたといふ事である。

國民としての常識 (終り)

昭和十三年十月二十日 印刷
昭和十三年十月三十日 發行

(定價金壹圓也)

著者 小林善八

發行者 東京市中野區小瀧町四九番地
市川靖己

印刷者 東京市中野區小瀧町四九番地
東京出版通信社印刷部

不許複製

發賣所

東京市中野區小瀧町四九番地
東京出版通信社
電話中野六七〇四番・振替東京八四八三八番



387
19
95

